

16. 野鼠発生予察と防除法

1 試験担当者

保護部鳥獣第1研究室：宇田川龍男，白石 哲

北海道支場野鼠研究室：上田明一，前田満，桑畑 勤，樋口輔三郎，五十嵐文吉

木曾分場：水野武雄

東北支場：土方康次，星川陽吉，小野 馨

関西支場：伊藤武夫

四国支場：陳野好之，五十嵐豊

2 試験目的

野鼠の被害は北海道，本州，四国など各地に発生するにいたり，このため多くの造林地で生息数調査が行なわれているが，この調査はその時点の生息数の把握のみで，爾後の個体数の増減を予測することができない。従つて生息数調査に加え，特定の地域での野鼠個体群の年令構成繁殖状況を解剖的見知から調査し，より高い精度でその年の野鼠個体群発生量を予知する必要から本調査を行なう。

3 昭和43年度の経過とえられた結果

特定地点である八ヶ岳山麓の試験地で，7，9，10月の3回，林野庁方式の罠かけ作業を実施し，採集された野鼠から生息密度を算定し，剖見により繁殖状況を調査したが，ハタネズミの生息密度は夏に高く，秋に低下することがわかった。

繁殖状態にある個体は，7，9月に多く，10月下旬に終了していた。また，スミスネズミが秋期に優位で生息密度はハタネズミより高かった。季節的令構成については取りまとめ中である。

北海道においては，エゾヤチネズミの発生状況を予測するため道内11か所で春，夏，秋の個体群の年令構成，繁殖状態を解剖的に調査したが，春の発生状態は，道南で4月中旬から，道中央ではそれよりややおくれ，道北では5月上旬から繁殖活動が開始されることが推定された。

夏の生息状況は春の発生状態によつて比例し，昨年の高密度地帯が再び高密度を示した。夏の繁殖活動は低調である。

秋は9月中旬から開始され，10月上旬まで繁殖活動が続いている。生息数の増加傾向を記号放逐法で調査した野幌では昨年の2倍以上に増加していることが認められた。

食性，営巣条件としてのササ類その他草木の開花結実と，これの刈払い方法による繁殖，侵入状況等調査したが，岡山県ではヤネクキザサの一斉開花結実があり，秋期にハタネズミが大繁殖した。

4 昭和44年度の試験計画

- 1 八ヶ岳山麓における野鼠の消長の定期調査を行なう。
- 2 個体群変動の要因解析，とくに生理的要因との関係を究明するため，ホルモン分泌腺，生殖腺の組織学的，細胞学的研究を行なう。
- 3 前年度に引きつづき加害種であるハタネズミ，スミスネズミの繁殖試験を行なう。
- 4 エゾヤチネズミ個体群の生息数環境として植生の役割を検討し，その収容能力から発生量を予測する調査を行なう。
- 5 生息数調査法の簡易化に関する試験
- 6 平地林における発生活長
- 7 山地林分の発生活長
- 8 ハタネズミの大増殖の要因の追求と，その発生活長の実態をスミスネズミとの棲みわけなどの調査
- 9 特定調査地における野ねずみの発生活長調査